国民総幸福

―成長の真の目的を再定義する

プンツォ・ラプテン

ブータンはヒマラヤ山脈の東部に位置する小さな王国である。北は中国と、南はインド亜大陸と国境を接している。人口はおよそ七〇万人で面積は三万八三九四平方キロメートルである。ブータンの政治体制は民主立憲君主制であり、仏教が国の精神的な伝統となっている。

厚い雲の毛布に覆われ、高く雪をいただいた峰々に囲まれて、ブータンはまだ世界中の多くの人びとには知られていない。なぜかというと一九六〇年代に社会経済開発五カ年計画をスタートさせたことからブータンの現代史は始まったからである。それにともなって開発援助や技術支援が入りだした。ブータンは一九七一年、国連に加盟し国際社会の仲間入りをした。その後、二国間レベルおよび多国間レベルで国際協力が伸びていった。

ブータンが開発の初期段階にあったころ、現在すでに発展した地域にある多くの国々は、新興国も含め、経済成長においてすでに発展しており、より多くの富とより高い生活水準を生み出していた。ゆえに、ブータンがそれら富んだ国や経済をうらやむ理由は十分にあった。そして従来のGDPをベースとした発展モデルと同様の経路を進むよう動機づけされることも可能であった。

しかし、経済環境はそうせざるをえなかったにも係らず、ブータンはそれに追従するという選択肢をとらなかった。代わりに、ブータンは、発展のパラダイムを再定義し、国民総幸福量（GNH）とよばれる発展の指針となるブータン独自の考え方を通じて発展を追求した。GNHは第四代のブータン国王（在位一九七二～二〇〇六年）が一九七二年に一七歳で王位につかれたあとすぐに考え出され広められた概念であった。

国王陛下の英知は時代の先をいっていた。約四〇年前、陛下はすでに、世界中で定式化され追求されていた発展の方法が長期的にみて維持できないことを予見されていた。そのため、中道のアプローチとしてGNHは、ブータンが、経済発展のみならず文化的、精神的、環境的な厚生と調和が取れた発展をも確実にする政策や法律を念入りに作り上げていくことを可能にした。

しかしながらGNHはまったくGDPを否定するものではないことを明らかにしなければならない。確かに成長は必要な条件である。しかし成長のみでは十分な条件ではなく、同等に考慮にいれなければならない重要なことがらが他にある。金銭的で刹那的に心地よい気分を味わう「幸福」という概念とは異なり、GNHは多次元的な概念である。それは、精神的幸福、健康、教育、生活水準、文化的多様性・弾力性、共同体の活力、優れた統治、環境多様性・弾力性、そして時間の消費など多岐にわたる。

これらの分野をひとつにしたレンズを通じて発展を追求することは全体的な発展の実現を確実にする。

国家は国民の心に幸福を植えつけることはできない。しかし、より大きな幸福や安寧を感じさせるようにするなにかを国民が追求するよう、実現可能な条件を創造することはできる。そのようにして、この文脈においてGNHは人びとの幸福や厚生を発展の中心におくのである。国の役割は必要な条件を作るうえで非常に重要であり、ブータン王国憲法の第九条は「国は、国民総幸福の追求を可能にする諸条件を振興すべく努力しなければならない」と定めている。

多くの文献は、国は豊かになったが人びとの幸せのレベルや生活の満足度は経済発展と同じ割合で増大しておらず、むしろその速度は緩慢であるかもしくはまったく停止していると指摘している。従来のGDPの成長は本来、個人や共同体の幸せや厚生にとって重要な様々な面を排除していた。これが多くの政治家や学者の注目を集め、従来の成長パラダイムが正しいものかどうか、このまま続けてもよいのだろうかという議論を巻き起こした。この点について、成長や社会の進歩を測るためのより全体的方法をもとめる必要性について世界中でコンセンサスができつつある。

ブータンはこの点につき、きっかけをつくった。そして国連は二〇一二年ブータンが幸福と厚生についてのパネルディスカッションを組織することを定めた。これを受けてブータン王国政府はハイレベル会合「幸福と厚生―あらたなる経済パラダイムを定義する」を立ち上げた。この会議の報告書では、幸福、健康で繁栄している状態を実現する経済パラダイムや新たなる持続可能性を求めるグローバルな運動の高まりに期待が寄せられている。

最後に読者の皆様の幸福で健康な生活をお祈りします。

Phuntsho Rapten／アジア経済研究所　海外客員研究員
ブータン労働・人的資源省、政策立案局、チーフ・プランニング・オフィサー。